

会 議 録

会議名	令和6年度第1回印西市子ども・子育て会議
開催日時	令和6年7月11日（木） 午前10時から午前11時45分まで
開催場所	印西市文化ホール大会議室
出席委員	松山毅 会長、武藤茂 委員、周郷真由美 委員、大澤成行 委員、植村直子 委員、 穂戸田和宏 委員、金子貴子 委員、木内郁美 委員、篠原裕子 委員 計 9名
欠席委員	葛生茉布美 委員、和地朝子 委員、渡辺恵美 委員 計 3名
出席職員等	[健康子ども部] 部長 田口光浩 [事務局]【子育て支援課】齊藤利裕、小川敏博、黒田学、清田和広、竹下和也 【株式会社ぎょうせい】長澤洋、小林将之、中田有希 [関係課]【保育課】藤巻孝、木村一美、成田勝也、東田圭、鈴木美穂 【子ども家庭課】坂本郁子、小野田昌代、小森谷幸一、酒井絵里子 【学務課】佐瀬義仲、中澤寿治 【生涯学習課】飯塚知明 計21名
傍聴者	なし
会議次第 議 題	1 開会 2 議題 （1） 副会長の選出 （2） 市内保育園、認定こども園及び幼稚園の利用定員等について【資料1関係】 3 報告 （1） いんざい子育てプラン進捗状況について【資料2関係】 （2） こども計画（仮）に係るアンケート調査結果（速報値）について【資料3関係】 4 その他 5 閉会
配布資料	【会議次第】 【資料_A】 委員名簿 【資料1関係】 市内保育園、認定こども園及び幼稚園の利用定員等について 【資料2関係】 いんざい子育てプラン進捗状況 【資料3関係】 3-1から3-7まで単純集計結果報告書

会議概要・審議経過

会議の公開と傍聴規定について

会議の録音並びに会議録の要約筆記及び署名について

会議の開催について 定足数に達していることを報告

会議資料の確認

1. 開会

2. 議題

(1) 副会長選出について

○事務局より説明

【議 長】これより副会長の選出を行いたいと思います。

副会長の選出ですが、どなたかいらっしゃらないようでしたら私の方から推薦させていただいてもよろしいでしょうか。

特にご異議がないということでしたら、副会長には穂戸田委員にお願いしたいと思いますが皆様いかがでしょうか。

もしよろしければ拍手でお願いいたします。

【議 長】ありがとうございます。それでは、穂戸田委員に副会長をお願いできますでしょうか。

【委 員】はい

【議 長】それでは、穂戸田委員に副会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○副会長（穂戸田委員）決定。副会長あいさつ。

【議 長】それでは議事を進めていきたいと思います。

議題（2）市内保育園、認定こども園及び幼稚園の利用定員等について、議題とします。事務局より説明をお願いします。

(2) 市内保育園、認定こども園及び幼稚園の利用定員等について

○資料1に沿って保育課より説明

【委 員】今回は、定員数には結果的に総数変更は生じていないとのことだが、個々の施設の定員、内訳変更は市民のニーズに沿った形での変更と考えてよいのでしょうか。

【事務局】委員のお考えの通りです。

【議 長】そうである、とのお答えでした。質問の主旨は、例えば3～5歳の定員を削って満3歳児クラスを作るというのは、3～5歳の状況でそれは大丈夫ですか、といったことかと思っています。

【事務局】市川学園の例では、認可をされたときから利用者の声を聴きながら徐々に定員を変更することとなっています。今回の2号定員の拡充は、施設側の意向ではあるが、市としても許容できることと判断しています。原山幼稚園の例では、満3歳児クラスのプロダムについて関連園の実績からノウハウを積み上げており、その上での満3歳児クラス新設の話です。市としても歓迎できる話で、施設に空きもあるので承認しました。

【委員】いろいろ検討した結果であるとのことなので納得しました。満3歳児クラスの新設は市としても良いとの話だったが、他の園にその方向性はあるのでしょうか。

【事務局】この後の計画の中で見込みなど検討することになると思います。満3歳児というのは無償化の対象でもあり、他の園にも拡充の方向性があります。園児にも良い効果というのは原山幼稚園から聞いたことがあります。

【委員】今後も進めていくなれば市役所、園、保護者など情報共有が重要です。市側で良いと思っていることならば十分に情報の共有、発信をお願いします。

【委員】今回変更して全体の定員は変わらないとのことだが、3～5歳児を減らして満3歳を増やすことで、設備や保育士配置はどうなるのでしょうか。

【事務局】原山のケースでは空き教室もあり、満3歳児クラスを別の部屋で作るということでもあります。園の中で保育士資格のある人が新設の満3歳クラスにあたる、と聞いております。

【委員】3～5歳の定員は減っているが、在園児は大丈夫なのでしょうか。

【事務局】原山幼稚園は減少後の46人よりも現在利用者は少なく、問題はありません。

【委員】こうして議題にあがるということ自体が情報共有の一つでもあるが、実際の説明では定員割れの例などもあるとのこと。印西市は満3歳児とかプレクラスを進める方向ということも捉えられ、市としてそこに力を入れるビジョンがあるなら、計画にも生かしていければ、子育てしやすい市ということも伝わるだろう。

【委員】満3歳児クラスについて、小規模保育園が増えている中、小規模で2歳が終わって満3歳児に移行するところに壁、待機が生じる実態があります。市内でも2歳児クラスを設けている園があり、その後が満3歳児、保護者もそこは求めていると思います。幼稚園の場合、このクラスは教諭資格か保育士資格のどちらがやるかなどの問題もあってなかなか踏み込みにくいかもしれないし、保育園も受け入れを簡単に増やしていくところでもある。ニーズは多いと思います。

【議長】ご意見ということでよろしいでしょうか。では議題2を終えますので意見等を踏まえて今後も調整してほしいです。

続いて報告（1）いんざい子育てプラン進捗状況について報告をお願いします。

（1）いんざい子育てプラン進捗状況について

○資料2に沿って、各担当から取り組み状況等について説明。

【委員】概ね計画値が実績値を上回っているのが、それは市で、見込みを余裕をもって設定した結果かと思われます。感謝したい。学童保育、放課後子ども教室は足りていないようで、牧の原に学童新設ということも聞き、努力に敬意を表したいが、どのくらい増えるか、民間経営はあるか、などが保護者の関心だと思います。それも踏まえて整備してほしいです。

【事務局】まだ100人規模の待機であるが、減少には転じています。6年度の数字は年度始めの数字であり、新しい施設、増設の予定もあり、民間の予定も来年度はあります。待機児童解消にはさまざまな方法で動いています。

【委 員】 病児保育の事前登録とはどういうものでしょうか。すぐに治らない病気の子やインフルエンザの子などはどうなのでしょう。

【事務局】 病児は通常の風邪など一時的なものを対象としています。

【委 員】 登録というのは会員のようにないといけないということでしょうか。

【事務局】 親の就労で保育園に通っていて、病児を見られない人が事前に登録するものです。

【委 員】 保育園が登録するということでしょうか。

【委 員】 申し込みはあくまで個人です。保育園はその対象者がいるので案内はするが、働いていない人は病児を使えないのか、などあいまいなところもある。

【事務局】 保育に欠けるかどうかという区別がまずあります。保育に欠けており、病気の際は診られないとなれば病児保育を利用するということになります。

【議 長】 働いている保護者対象の事業ではあるが、長期治療の必要な子とか、就労保護者の増加など課題は多いです。

【委 員】 放課後子ども教室は学童保育とどう違うのでしょうか。

【事務局】 放課後子ども教室は、保護者の就労状況等問わず地域の方が子どもたちの勉強をみたり遊びを教えたりという、地域の方の参画を得て実施する事業です。

【委 員】 学童とは全く別ということで良いか。放課後子ども教室の実施状況はどうなのか。事業主体はどこか。どの学校にもあるのでしょうか。

【事務局】 滝野小、本埜小の2学校のほか、令和6年度から原山小でも始まり、市が実施しています。

【委 員】 原山は学童がなくて始めたと聞きました。また子ども教室はボランティアがやっていると聞きました。

【事務局】 原山小学校で開始したきっかけではありましたが、地域及び学校の理解と協力を得て実施を決めたものです。スタッフは地域の方が有償ボランティアとして関わっています。

【委 員】 子ども教室が十分にあれば学童保育よりもその方がいいのではないかと。学童は利用料がかかるが、子ども教室は利用料がかかるのでしょうか。

【事務局】 子ども教室は無料だが、活動で使う教材資材などは実費負担としていただくものです。

【委 員】 子ども教室を午後4時半までと決めたのはなぜでしょうか。

【事務局】 市が学校施設を借りて実施するため、学校の時間に合わせました。

【議 長】 放課後こども教室は文科省、学童は厚労省、子ども教室はNPOとか地域の力で子ども健全育成を目的とする。地域の見守りの目が増えるという意味ではそれを増やすのは政策目標としてよいが、学童は保育であり、そこは分けて考えなければいけない。

【委 員】 拠点事業についてコロナ後非常に減ったとの説明があり、今後、利用時間予約不要などで増やしたいとのことだが、我々事業者としても努力したい。資料の利用者支援事業、ファミサポなどは利用者が探してくる事業であり、利用者がそれをなかなか見つけられないのではないのでしょうか。市はPRをしているが、目標達成していないという数字が多いということから、利用勧奨や、我々事業者との情報共有など、まずは市が考えてもらいたい。

【事務局】 地域子育て支援拠点事業は、計画策定がコロナ前だったのでその時の利用者数を基に計画を作ったが、計画が出た頃にコロナで実績が令和2～5年までかなり下回り乖離が生じています。各事業所、市、ともに利用者を増やすよう内容見直しなども考え、コロナ5類移行後は利用者も上向いています。PR、HPでの告知、支援事業では毎月のお便り広報もあります。事業者の各施設で特色ある事業展開などで利用者を増やしてもらえるとありがたいです。4月以降、利用は増えているようで、今後増加が期待できるところであります。

【委 員】 それ以外の事業など、市が情報提供してもわからないということがないように、計画値に実績値が足りないからダメ、ということを行っているのではなく、計画値に利用者数を近づける努力が必要ということであります。その一つの手段がPRと思います。

【事務局】 母子保健の中では、妊婦健診で保健センターだけでなく児童館のことを紹介しました。自由来館になっていることなども伝え、「ころころ相談」は82%の来所率だが、これは児童館の先生が教えてくれる遊びと一緒にやる、児童館を会場にするなど、大きくなってからの利用勧奨の一環として行っています。

【事務局】 事業の周知は重要とのご意見でしたので、昨年10月から子育てナビ、子育てに特化したホームページを開始し、市のLINEやホームページでも逐一情報発信に努めたい。

【議 長】 ニーズは、コロナ期の実績を見て少ないから次から減らそうということではなく、事業者の話なども聞きながら方針考えることも大事。養育支援訪問のような、ニーズの高い、リスク高い方を対象とするものと、あまねく広く実施するものがあり、バランスを見ながらの検討が大事と思う。

【委 員】 保健師の方は母子保健事業でも丁寧に説明している印象であります。情報としては市民みなご存じであろう。実際そこにアクセスするかどうかで、行かない人の方がハイリスクなのだろうと思います。支援が必要な人にきめ細かくアクセスできればと思います。

【委 員】 学童保育、子ども教室、この2つは違うものということだが、保護者のニーズはほぼ同じで、学童に通えず子ども教室に通っているという実態だが、市では今後融合の方針はどうでしょうか。

【事務局】 全国的な少子化の中で、学童保育が足りないとしても新設の方向は難しく、全国で空き教室が増えているのでそこを使って、というのが国の考えの一つでもあります。ご質問は、完全に学校と連携した学童保育の整備方針というイメージでしょうか。

【委 員】 待機児童は大きな問題である。学校の警備システムの変更などで子ども教室が学校内ででき、同じく学童保育も学校内で、ということを検討するとよいのではないかと考えた次第です。

【事務局】 待機児童の危機感はある、努めていきたい。

【議 長】 全国で少子化というが、地域でみなければいけない。牧の原、ニュータウンは足りないが周辺は空いているなど、そうならず待機はゼロというようにもっと細かく見るならエリアごとくらいで見ないといけないのでここは行政にお願いしたい。あの市なら保育園に入れるという、子育てしやすいまちの情報はお母さん同士では伝わるのが早いです。検討すべきところと思います。

【委 員】 全戸家庭訪問で、今の保護者は「家に来られるのはちょっと・・・」という人もいます。ぜひ保育園を活用していただければと思います。園によっては大変で困るかもしれないが、協力していければよいと思います。

【議 長】 家庭訪問は、家庭の様子を見て支援につなげるという側面もあります。

【事務局】 健診には来られないが保育園送迎の時に時間はとれるという保護者には、母子保健でもそこで話を聞いたりしています。

【委 員】 児童委員をやっています。里帰り出産で上の子を連れて里帰り出産のケースで、上の子はどこも預かってくれないといった事例があり、市にはそこをフォローする仕組みはないのでしょうか。ファミリー・サポート・センターは利用料金がかかり、シングルマザーで1回何百円払うのも辛いという声もあります。今すぐ返事でなくてもよいが、聞いた話としてお伝えしておきたい。

【事務局】 ファミリー・サポート・センターの件ですが、ひとり親家庭には利用料金が所得により助成される仕組みもあるので相談してほしい。

【議 長】 まさにこういう情報は伝わりにくい、現実、何百円の利用料が辛いということはある。今説明のあった助成のことなど、しっかり伝わるとよいです。

続いて(2)こども計画(仮)に係るアンケート調査結果(速報値)についてお願いします。

(2)こども計画(仮)に係るアンケート調査結果(速報値)について

○資料3に沿って、事務局より説明。

【議 長】 アンケートはいつ実施したのでしょうか。

【事務局】 今年の2月から5月にかけての実施です。

【議 長】 子どもは学校で、保護者は郵送でとのことでしたが、学校関係じゃない人は紙の調査のみでしょうか。

【事務局】 調査票に二次元コードを記載し、WEB回答と併用しました。

【議 長】 WEB回答の割合はどうでしたか。

【事務局】 一例として一般調査でいうと、全体の回答率は44.5%、配布数に対しWEB回答率は16.2%でした。

【議 長】 このアンケート結果は、今後計画に反映していくということで、他に質問はありますか。

【委員】 就学前調査のQ31子育てが楽しい、つらい、両面がある。有料サービスで利用料負担を感じて利用控えなどあるのではと感じました。経済的支援なども市民ニーズは高いと思います。

【事務局】 今のようなことはアンケート内容を十分分析して計画に反映するよう努めたいと考えます。

【議長】 子ども、若者の意見を聞いているところも活用してもらいたいし、市に希望するもの、市のいいところなどの意見もある。一方でいろいろな課題もあります。今後、どのように課題を抽出したかなども会議に上がってくると思います。

【委員】 自分には中学生の子どもがいます。アンケートで、自分のことが好きか、家族に大切にされていると思うか、印西市が好きか、などはよい結果と感じた。うちの子どもも、大人になってもまた印西市に帰ってきたいと言う。地域にも市にも感謝である。

【委員】 予算をがんばって、経済的理由でサービスを使えないという人がないようにしてほしいです。

【事務局】 子ども関連予算も今かなり充実の方向で予算検討中です。事務方も市民が満足できるような子ども・子育て施策を考えていきたい。

4. その他

【議長】 その他として事務局ありますでしょうか。

【事務局】 今後のスケジュールについて、計画策定にあたり、こどもの意見聴取として、9月8日に順天堂大学内で、松山先生や学生のご協力をいただき、市内の小4から中3のこどもワークショップを開催の予定です。募集は教育委員会の一斉メールなどを予定しているが、もしお近くに小中学生のお子さんがいればぜひお声がけしてほしいです。

5. 閉会

【議長】 それでは以上で、議事議題、報告は終了になります。以上をもって、第1回子ども・子育て会議を閉会します。

○事務局より連絡事項等

- ・今後の開催の見込みについて
- ・委員報酬について
- ・会議録の署名委員について

令和6年度第1回印西市子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和6年8月22日

子ども・子育て会議委員

子ども・子育て会議委員